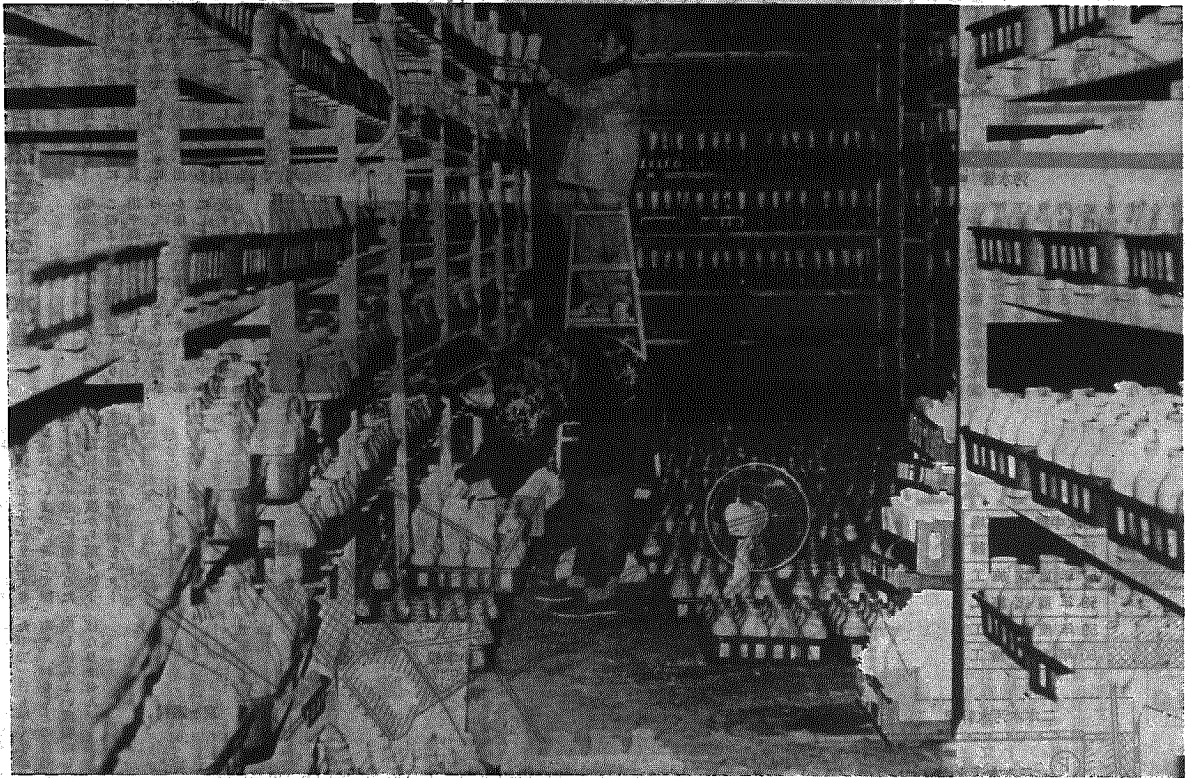


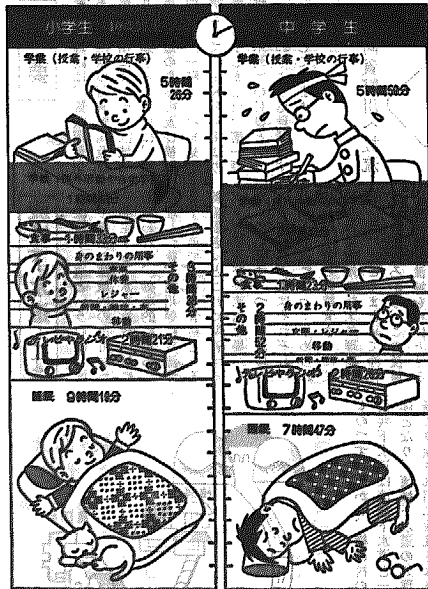
— おもな内容 —

1. 子供たちは、いま (1P)
2. 豊かな住みよい環境をめざして (2P)
3. 苑山地区に集落開発センターが完成 (2P)
4. 期待される新しいエネルギー開発 (3P)
5. 連合婦人会総会開く (4P)
6. 横門夕 (女子) が2連勝 (4P)



シリーズ村の特産 ② いのきたけ栽培 木津 小野塚定雄氏

平日の子供の生活時間 (小・中学生別)

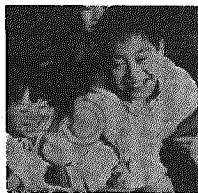


新学期が近づきました。子供たちにとっては、進級、進学に脚おどらせる季節です。ところで、いま子供たちは何を考え、どんな遊びをし、どのような将来の夢を描いて日常生活を送っているのでしょうか。

わたしたち親の一人ひとりが子供たちの心の風景を常に的確につかんでいることが子供達の健全な成長に大きなプラスになることは、いまでもありません。五十四年版「青少年白書」から現代の子供像を浮き彫りにしました。

子供の生活環境としては、家庭と学校、社会の三つをあげることができそうですが、一番問題なのは、やはり家庭での親のあり方でしょう。高度経済成長の過程で、親の意識が、とかく物質的な充足に向られ、その反面、子供、家庭の中で親子の交流や友が疎外されているというこがたいと思えます。

ひとつの例をあげますと、夫婦共働きでがんばる、それはそれでいいのですが、だん子供をかばってやれないといふ、うひげ目を、つい小遣いの額を増やしたり、物を買ってやったりすることで埋め合せてしまいがち。しかし、子供が求めているのは、親の本当



子供たちは、いま

54年版「青少年白書から」

親の本当の愛情を求めている!

青少年問題懇話会委員

井村和朗

子供の生活環境としては、家庭と学校、社会の三つをあげることができそうですが、一番問題なのは、やはり家庭での親のあり方でしょう。

高度経済成長の過程で、親の意識が、とかく物質的な充足に向られ、その反面、子供、家庭の中で親子の交流や友が疎外されているというこがたいと思えます。

ひとつの例をあげますと、夫婦共働きでがんばる、それはそれでいいのですが、だん子供をかばってやれないといふ、うひげ目を、つい小遣いの額を増やしたり、物を買ってやったりすることで埋め合せてしまいがち。しかし、子供が求めているのは、親の本当

雪国の最後の冬もようやく終り、やとと春が訪れようとしていて。冬が終ろうとし、春が見えかけている今この時期が私は一番好きである。暖かい家や、夜響との暖かい笑顔を、暖かな陽射しに今まで眠っていた様々な植物が目覚めようとしている。新しい生命が芽生えているそんな時期が私には何ともいいない。

この頃になると、小学校、中学校、高校などの卒業式が行われ、卒業生の御父兄の方は、お子の成長に今さらながら驚かされておられる事と思える。光陰矢の如し。の言葉が思い出される。ところで、この卒業式であるが日本では卒業式を修め終った式、つまり終りの式、として行われていくがこれに対して、ケンブリッジ大学などアメリカの諸大学では卒業を Commencement と言うのだ。Commencement と云うのは、始め、始まり、と云うことだ。日本流の卒業と云う意味で、なんどなく、立直書、の方が好きである。そも、物事に区切りはあっても終りはない。我々をとり巻く自然にしても同じである。一年の中には春夏秋冬と四つの季節があり、過ぎたら終りかと思えば決してそうでない。冬には必ず春がめぐってくる。ひとつのことが終わったと云うのは次のことを始めるのスタートラインに過ぎないといふことではないだろうか。今までのことを改し進めたら次に進む。常習的進歩の姿勢であって欲しい。小学生は中学へ、中学生は高校へ、高校生は就職進学と新しい道を歩みはじめ。人生において卒業は一回だ。若者達に卒業は一回に立って男を卒業は一回で済ませ、声援を送るのではないでしようか。(山崎)